

近現代史をどう主体的に学ばせるか ～身近な戦争体験を発掘し、戦争と平和について考察する～

村山明生

鳥取大学附属中学校 社会科

E-mail: E-murayama524@tottori-u.ac.jp

MURAYAMA Akio (Tottori University Junior High School) :Teaching students modern history in an active learning environment. ~ Researching personal war experiences and reflecting on war and peace ~

要旨 — 近現代の重要性が叫ばれているが、日本が経験した5つの戦争について単にその原因や背景を知ることが目的ではない。現代日本のおいたちを知り、今日の平和と将来の平和を世界規模で考えることが大切である。近現代史をできるだけ主体的に学ぶ方法はないかいくつかの方法を試みてみた。1つは逆学習, 1つは近現代なぞかけづくり, 1つはファミリーヒストリーである。

キーワード — 近現代史, 主体的な学び, 逆学習, 近現代なぞかけ, 身近な戦争体験 (ファミリーヒストリー), 持続可能な社会

Abstract — The significance of modern history has been advocated, but just learning the causes of five wars Japan went through is not the aim of its study. When considering globally what peace means today and what it will mean in the future, it is important to recognize how modern Japan was built. We tried three ways to actively teach students modern history. The first method was backward learning, the second method was composing modern history riddles, and the third method was researching family member's war experiences.

Key words — modern history, active learning, backward learning, modern history riddles, personal war experiences (family history), sustainable society

1. はじめに

2019年5月1日の生前退位を受け、時代が令和となった。平成の日本は戦争のない平和な時代だったわけだが、改めて平和の尊さを考えるチャンスであると捉えた。まず、平成と昭和を比較しながら昭和20年終戦の日までさかのぼることにした(逆学習)。そして、大正時代～昭和20年まで学習した。

また、近現代史の学習をより興味深く学ばせるために、「近現代史なぞかけ」に挑戦した。まずは、こちらがお題を提示。【憲法9条とかけまして梅雨空ととく。その心は…】

生徒にもこのようななぞかけを考えてみるよう課題を出し、学習意欲向上を図った(近現代史なぞかけ)。

さらに、近現代の戦争と自分自身は決して無関係ではないことをよりリアルに考える手段として、家族への身近な戦争体験聞き取り調査(ファミリーヒストリー)を行った。

いずれも日々の社会科の授業と並行して行うこととし、期間を設けて、作品・レポート提出を生徒に課すこととした。

2. 授業構成

2.1 教師と教材

日清・日露戦争を経て日本は列強諸国の仲間入りを果たし、明治時代の終わりには悲願の関税自主権の回復を達成する。大正時代に突入し、徐々に大日本帝国憲法における国家権力の不備と世界の動きがリンクして大きな戦争に発展していく。二度の世界大戦と我が国の歴史がどう関わっているかをダイナミックに、できるだけ自分との関連を意識させ、大単元内の構成も工夫して実践したい。具体的には、昭和と平成を比較しながら昭和20年までさかのぼっていく。そして、大正時代～昭和20年までの流れを順に学習していくことにした。歴史学習の最後に持続可能な社会を形成するためによりよい未来像をイメージさせるため、

国連の2030年までの目標(SDGs)を紹介し歴史の授業のまとめとした。

2.2 子どもと教師

1890(明治23)年、大日本帝国憲法を補うように発布された教育勅語は、戦時下においては、国民学校で暗唱することが常識とされ、日本人の精神のよりどころとなっていた。近現代史の学習においては憲法9条の暗唱が学習の手がかりとなるのではと考え、まず、教師が憲9条を暗唱してみせ、全員に暗唱してみるよう課題を出した。すると、ものの10分で暗唱する生徒が現れた。毎時間の授業開始後3名程度の暗唱テストを実施し、回を重ね全員が暗唱を完了した。また、近現代史なぞかけでは、まず教師よりお題を与え、できるだけ多くの生徒に主体性を持って取り組めるように継続的に取り組んだ。

2.3 子どもと教材

現政権は、憲法改正を党是とかかげ、憲法9条の改正に積極的である。まだまだ国民的議論は不十分であるが、改正にせよ加憲にせよ、又は護憲にせよ、我が国の平和のあり方を今まで以上に真剣に考える必要がある。

近現代史の学習を踏まえて、公民的分野の学習に入っても戦争と平和について考え判断していく必要に迫られる。そこで、身近な戦争体験を発掘し、戦争と平和についてできるだけリアルに考える手段として、家族への身近な戦争体験聞き取り調査(ファミリーヒストリー)に取り組んではと考えた。

3. 近現代指導のながれの具体

1	平成とはどんな時代だったのか① (昭和と平成のちがいは何だろう。)
2	平成とはどんな時代だったのか② (昭和と平成のちがいの背景は?)
3	平成とはどんな時代だったのか③ (平成とはどんな時代だったのか説明してみよう。)
4	なぜかつて日本は戦争したのか (日本国憲法第9条暗唱開始)
5	マッカーサーが何をもたらしたのか① (DVD その時歴史が動いた「昭和天皇とマッカーサー会見の時」)
6	マッカーサーが何をもたらしたのか② (民主化とはどういうことか)

7	先の戦争について具体的に理解する① (DVD その時歴史がうごいた「戦艦大和沈没」)
8	先の戦争について具体的に理解する② (資料1)
9	先の戦争の終結の流れを理解する (なぜ日本は米国と戦争をしたのだろうか?)
10	1900年前後の東アジアの列強進出図(なぜ日本は米国と戦争をしたのだろうか?)
11	日本と第一次世界大戦 (英国の要請で地中海に軍艦を派遣)
12	第一次世界大戦前後でどのような変化があったのか
13	ロシア革命と社会主義 (資本主義と社会主義・共産主義)
14	第一次世界大戦後のアジア (民族運動が盛んになったのは?)
15	大正デモクラシーとは何か (民本主義・天皇機関説)
16	憲政の常道とはどういうことか (原敬の人気の秘密な何か)
17	大正時代はどんな時代だったのか (広まった社会運動について)
18	ヒトラーの演説の魔力について (映像資料)
19	戦争の一因を経済的側面から考える① (世界恐慌と各国の対応)
20	戦争の一因を経済的側面から考える② (DVD その時歴史がうごいた「満州事変関東軍独走す」)
21	戦争の一因を政治的側面から考える (資料2)
22	1930年代はどんな時代だったのか① (資料3)
23	1930年代はどんな時代だったのか② (DVD その時歴史がうごいた「三国同盟締結松岡洋右の誤算」)
24	いつなら戦争の道を引き返せたか① (DVD その時歴史がうごいた「真珠湾への道」)
25	いつなら戦争の道を引き返せたか② (資料4)
26	小日本主義とは何か (発展問題)
27	近現代史の学習で戦争や平和について考えたことを文章にまとめてみよう
28	戦後はいつ終わったのか① (サンフランシスコ平和条約)

29	戦争はいつ終わったのか② (沖縄返還・日中平和友好条約ほか)
30	令和の時代に何が求められているか 【公開授業】

4. 単元の目標

○憲法 9 条暗唱やファミリーヒストリーの聞き取りなどを意欲的に取り組むことができる。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

○いつなら戦争への道を引き返すことができたのかなど自分の意見を論理的に説明したり、近現代史の学習を通して考えたことを文章化することができる。 【社会的な思考・判断・表現】

○2つの世界大戦と我が国の関わりや戦後のながれなど、主な流れや戦争・事件や出来事についてその内容を理解することができる。

【社会的事象への知識・理解】

5. 結果（生徒作品）

生徒に示した謎かけの解答例は次の通りである。【どちらも改正／快晴が望まれます。又は望めないでしょう。】

主な生徒作品は、以下のとおり。

二・二六事件とかけまして、地下鉄サリン事件とときます。その心は、どちらも将校／彰晃のしわざです。

ブロック経済とかけまして、体育館で転んだ時とときます。その心は、どちらも摩擦がすごい。

北方領土とかけまして、ブラック企業の社員とときます。その心は、なかなか返ってこない／帰ってこないでしょう。

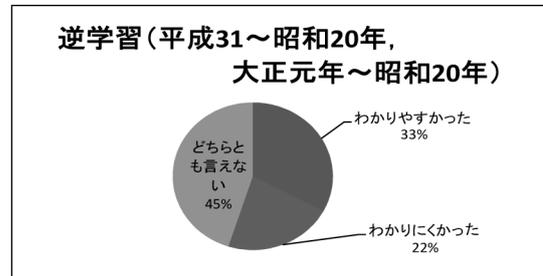
米騒動とかけまして、国際連盟とときます。その心は、どちらも米必要でしょう。(国際連盟には米国が国内の反対で加盟しなかった)

世界大戦とかけまして、なぞかけとときます。その心は、どちらも味方／味方が大切です。

昭和とかけまして、怒りが収まったとときます。その心は、どちらも平成／平静になる。

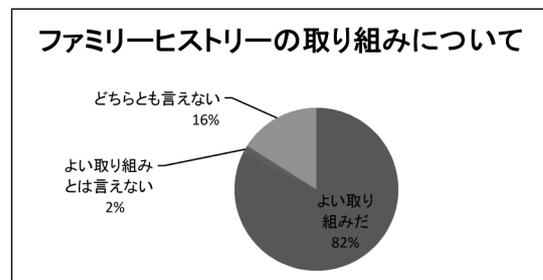
5. 考察とまとめ

平成と昭和をさかのぼり終戦の昭和 20 年まで学習していく、そして、生徒たちに問いかける。「なぜ日本は米国と戦争をしたのか」と。事後アンケートでは、以下のとおりであった。



わかりやすかったが3人に1人。わかりにくいのが4人に1人。生徒たちには違和感のある学習になったようだ。

家族への身近な戦争体験聞き取り調査(ファミリーヒストリー)については、おおむね肯定的だった。否定的な意見は2つ。「私の曾おじいちゃんは戦争に行き、帰ってきましたが、周りから戦争について聞かれるのが嫌だったし、聞いても答えてくれなかったそうなので、辛い記憶を思い出したくない人もいると思う」「母親に祖父母に戦争のことは思い出させないようにしてあげてと言われた」というものだった。



1つ1つの戦争の原因や背景を知ることだけが目的ではなく、日本が経験した戦争について主体的に学び、先の戦争と今の平和の関係を自分なりに学ぼうとする姿勢が大切なのはと改めて考えた。これからもあの時代はなんだったのかを考察し、戦争や平和について考えることが未来の平和を考えていくことにつながるのではなかろうか。

文献

相澤 理 東大のディープな日本史(中経出版)
羽瀨強一 近現代史・41時間のシナリオ(明治図書)

身近な戦争体験を発掘し

戦争と平和について考える

私の母方のお祖父さんは、戦争で片腕を負傷し戦地から生きて帰ってきました。小さい頃私は、お祖父さんに「何でお祖父ちゃんは腕がないの？」と尋ねていたそうです。（私には記憶がまったくありません。）みなさんの曾お祖父さんや曾曾お祖父さんには戦争体験者がいませんか？もしおられればどんな体験をされたのか家族に聞いてみましょう。

もし可能なら、その体験談を授業で紹介させてください。

鳥取大学附属中学校社会科 村山明生

ファミリーヒストリー _____ 組 名前 _____

戦争に行ったのは誰ですか？ 曾曾お祖父さん・曾お祖父さん・その他（ ）

あなたが話を聞いた人は誰ですか？ 父・母・祖父・祖母・その他（ ）

内容（戦争関係の遺品があれば、そのことについても教えてください。）

※この内容を授業で紹介してもよいですか？ よい ・ 匿名希望

資料1**戦時中の子どもたち**

日本が中国との戦争を開始し、やがては太平洋戦争へと突き進んでいった時代、当時の子どもたちはどんな生活をしていただろう。日本の子どもはみんな天皇の子どもだから、天皇のため国のために忠誠を尽くすことが当たり前だと考えられていた。

小学校は名前を(1)と改め、毎朝の朝礼が集合ラッパで始まり、国旗掲揚や皇居の方角に向かって最敬礼。ラジオ体操などをした後、必ず校長先生の訓話があった。特に儀式があるときには、「御真影」と呼ばれた天皇皇后の写^{ごしんえい}真が飾られ、最敬礼して決して前を見てはならないものとされた。そして(2)を暗唱できることは常識であり、また歴代の天皇の名前もすらすらと暗唱できなければならなかった。

遊びでは、当時圧倒的な人気があったマンガは(3)だった。野球もあったが、ストライクとかボールとかいう言葉を使ってはいけなくて、その代わりに(4)とか(5)と言わなければならなかった。敵の言葉を使うのはけしからんというわけだ。歌だってイギリスやアメリカの歌を歌ってはいけなくて、おかげで(6)も禁止された。

「社会科おもしろフックス資料集(明治図書)」より一部改めて引用した

※解答例 1 国民学校 2 教育勅語 3 のらくろ 4 よし 5 だめ 6 蛍の光

資料2**【満州の日本軍】**

日本は、日露戦争以来、第一世界大戦をへて、満州に利権をもっています。満鉄を中心に日本人が移住し、日本人を守るために関東軍が駐屯していました。

この満州には、中国の軍閥がいて、日本への抵抗を強めています。また民間ゲリラ隊もよく日本人を攻撃してきます。このままでは満州の日本の安全が得られない。あなたが次の立場ならどうしますか？

- ア 関東軍 イ 日本政府(内閣、総理大臣と各大臣から成り立つ)
ウ 天皇 エ 日本の統帥部(天皇を補弼する参謀本部) 補弼: 君主の政治を助けること

私の立場が [] なら

「近現代史・41時間のシナリオ(明治図書)」より一部改めて引用した

資料3**〔戦争の一原因を考えてみよう！〕**

次の三つの事件からどんなことが言えるだろうか？

A 1928年満州の軍閥張作霖が鉄道爆破事件で死にました。この事件は最初から関東軍のしわざと疑いがありました。昭和天皇は激怒して、厳重調査を命じました。天皇は真相をつかんでいたようです。ところが首相田中義一は天皇に対して「関東軍は全く関係なし」としらを切り、言い逃れをしようとしてしました。話が違うと田中を責めました。また言い逃れをすると、真相をつかんでいた天皇は怒り、「辞任してはどうか」としかり飛ばしました。

B 1930年、英・米・日・仏・伊の五ヶ国でロンドン海軍軍縮条約が結ばれました。補助艦を米10、英10に対して、日6.9となりました。日本側の若槻礼次郎外相は、アメリカとの協調と軍縮して財政を立て直そうとするために妥協しました。ところが、軍部は猛烈に反対して、「国防は統帥部が決めるもので、政府がかつてに条約を結ぶのは統帥権を犯している」とはげしく攻撃しました。翌年、浜口首相はこの考えの人に銃撃され、これがもとで亡くなりました。

C 1931年満州鉄道のレールが爆破され、関東軍は中国のしわざだと言い、戦闘を始めました（満州事変）。政府「ただちに戦争をやめよ。内閣総理大臣の命令だ」と伝えましたが、無視して、全満州を一気に占領してしまいました。この事件は石原莞爾の策謀でした。

一方国内では、橋本欣五郎がクーデターを起こして、荒木内閣を作ろうと計画していましたが、ばれました。もう死刑ものですが、そのとき一通のなぞの手紙が満州から届きました。「もしも橋本を罰すると、関東軍は日本から独立する」と脅しの手紙でした。恐れた政府は、橋本を数日間の謹慎だけですませました。

「近現代史・41時間のシナリオ（明治図書）」より一部改めて引用した

資料 4

いつなら戦争への道を引き返せたのか

自分の意見を説明することができる

A ()

1904 (明治38)
 日露戦争
 日英同盟 (1902)
 ポーツマス条約 (1905)
 ↓
 南満州の権益、満鉄、軍隊駐屯
 — 日本人の移民 —

B ()

1914~1918 (大正3~7)
 第一次世界大戦参戦
 シヤントン半島のドイツの権益
 満州の権益の強化
 ↓
 二十一ヶ条の要求
 — 中国の反感 (五四運動) —

C ()

1931 (昭和6)
 満州事変 (関東軍が列車爆破)
 満州国 (皇帝溥儀)
 ↓
 国連不承認 (42対1)
 — 日本 国際連盟を脱退 —

D ()

1937 (昭和12)
 盧溝橋事件 (北京郊外で日中衝突)
 日中戦争はじまる
 上海・北京・武漢占領
 — 英米蘭ソが中国支援 —

E ()

1941 (昭和16)
 日米交渉断絶
 真珠湾攻撃、対米宣戦布告
 マレー半島、インドシナ、インドネシア
 フィリピン太平洋諸島占領
 — ミッドウェー海戦大敗 (1942) —

下のア~オは、いつの出来事だろう。

- ア 軍部のクーデター発覚
 世界恐慌、農村危機深刻になる
 ロンドン軍縮会議脱退
 ニ・二六事件起こる
- イ 米配給制、大政翼賛会 (政党解散)
 学徒出陣、学童疎開
 B29本土空襲、食糧不足
 米軍が沖縄占領、広島・長崎に原爆
 ポツダム宣言受諾
- ウ 大正デモクラシー
 (吉野作造の民本主義)
 原敬の政党内閣
 普通選挙運動 (納税者3円以上)
 労働争議さかん
 社会運動
 ベルサイユ条約 (1919)
 普通選挙法 (男子25歳以上)
- エ 日独伊防共協定
 国家総動員法
 フランス領インドシナ侵略
 大政翼賛会 (政党解散)
- オ 日清戦後、八幡製鉄→重工業発達
 造船輸出が輸入を越える
 生糸世界一
 韓国併合
 関税自主権回復し不平等条約改正

私の選んだ時代は、 A・B・C・D・E

その理由は、

「近現代史・41時間のシナリオ (明治図書)」より一部改めて引用した

発展問題

いつなら戦争の道を引き返せたのか

次の文章は、当時ジャーナリストとして活躍していた石橋湛山^{いしばしたんざん}が、1921（大正10）年のワシントン会議を前に発表した「一切を棄つるの覚悟」の一部である。これを読んで、下の設問A・Bに答えなさい。

仮に議会の主動者には、我が国際的地位低くして成り得なんだとしても、もし政府と国民に、総てを棄てて掛るの覚悟あるならば、会議そのものは、必ず我に有利に導き得るに相違ない。たとえば①満州を棄てる、山東を棄てる、その他中国が我が国から受けつつありと考える一切の圧迫を棄てる。その結果はどうなるか。英国にせよ、米国にせよ、非常の苦境に陥るだろう。何となれば彼らは日本にのみかくの如き自由主義を採られては、世界におけるその道徳的地位を保つを得ぬに至るからである。

（中略）ここにすなわち「身を捨ててこそ」の面白味がある。遅しといえども、今にしてこの覚悟をすれば、我が国は救われる。しかも、こがその②唯一の道である。しかしながらこの唯一の道は、同時に、我が国際的地位をば、従来^{しゆんらい}の守勢から一転して攻勢に出でしむるの道である。

（『東洋経済新報 1921年7月21日号』）

設問A 下線部①の「満州を棄てる」とは何を棄てることを意味するのか。それを日本が獲得した事情を含め、60字以内で説明しなさい。

設問B 下線部②の「唯一の道」をその後の日本が進むことはなかった。その理由を、歴史的経緯をふまえ、120字以内で説明しなさい。

『東大のディープな日本史』より一部授業用に一部改めて引用した

A 解答例 ポーツマス条約でロシアから獲得し、ベルサイユ条約で承認された大連・旅順の租借権や満鉄経営権などの満州権益を放棄する。

B 解答例 大戦景気から一転して戦後恐慌に陥るなかで、国内市場が狭く、国際競争力もない日本にとって、満州は資源の供給地や輸出市場として手放せなかった。そのため、対米英協調の方針を堅持し列強の一員としてふるまうことで満州権益を確保する必要に迫られていた。

★公開学習について

(1) 本時目標 令和時代に何が求められているか考えることができる。

(2) 本時の展開

学習活動	○主な発問や指示 ・予想される生徒の反応	・留意点 ◎評価【観点】
1 近現代史なぞかけを考える	○みなさんがつくってくれた近現代史なぞかけを紹介します。	・事前に近現代史なぞかけを1人1つ考えておくよう宿題に出しておく。
2 戦争と平和について考えたことを発表しよう	○ファミリーヒストリーについて感想も含め発表してください。(事前に提出している用紙を返却し数名に発表してもらう)	・事前にインタビューさせておき、匿名希望以外の生徒に指名し発表させる。 ・ここまではテンポ良く進め、時間をかけないようにする。
3 令和時代に何が求められているか考える	◎令和時代の鍵は何だと思いますか？(ペア) ・多様性、女性、教育 ・人工知能A I ・ロボット ・外国人労働、移民	・国連の役割についてふれ、国連創設の経緯などを資料を配布して説明する。 ・戦争防止(平和)が大前提であることも押さえておく。 ◎自己評価カード
4 まとめ	○国連の具体的な目標(17の目標)を3つに分類してみよう。 1～6:社会等 7～12:経済等 13～17:環境等	・持続可能な社会を実現することが令和時代ますます重要になっていくこと、公民的分野への学習へつながっていくことを押さえたい。
5 自己評価カード記入		

※国際連合に関する資料とSDGsのカードは割愛